

## パブリック・コメントの実施結果

意見募集期間：平成 26 年 10 月 14 日（火）～11 月 14 日（金）

意見件数 43 件

### 【反映区分】

「A」計画等と同趣旨のもの	4 件
「B」計画等の修正を行ったもの	0 件
「C」計画等の推進の段階で検討するもの	31 件
「D」計画等の修正が困難なもの	6 件
「E」計画等に関する感想や質問であるもの	2 件

番号	反映区分	ご意見の内容	ご意見への対応
新実施計画策定に当たっての基本的な考え方について			
1	A	一県民として、次世代の人々の為に、今後の地域社会の為に、意見を提出しますが、「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画(新実施計画)」の策定は必要不可欠と思います。	今後到来する新たな生徒減少期にあっても、それぞれの生徒が進路希望を実現できる教育環境を整備し、社会経済情勢の変化に対応しながら、引き続き高等学校教育の質的充実を図っていくために、長期的・全県的な視点に立った県立高等学校の再編整備計画を策定してまいります。
新実施計画策定の方針について			
2	E	新実施計画（第1次）が出されたということは、第2次、第3次も延長線上にありますか。	新実施計画については、平成 30 年度に到来する新たな生徒減少期に向けて、早期に方針を決定し、準備に着手する必要がある県立高等学校の再編整備等を第1次、今後更に調査や検証、協議等が必要な県立高等学校の再編整備等を第2次とし、新実施計画（第2次）は、平成 28 年度を目途に策定することとしています。
生徒減少の状況について			
3	E	平成 30 年以降の生徒減をもっと真摯にシュミレーションして、さらなる、社会に役立つ若年人口を育てる高等学校数を想定してもらいたい。人口問題関係推定データの 2030 年には、今回の計画で対応できますか。	生徒数については、在籍者数や推計人口を基にして確実な推計ができる平成 40 年度（2028 年度）までを見込んだ上、特に生徒減が大きい平成 33 年度（2021 年度）までを今回の再編計画期間としています。再編により、各校が望ましい学校規模となるように配置を計画してまいります。

番号	反映区分	ご意見の内容	ご意見への対応
県立高等学校再編整備の基本方針について			
4	D	地域の声が反映されていない。小規模ならではの良さもあるはずである。それぞれの地域に根ざしている高等学校を現在のままの形で残してほしい。	地区説明会でも同様の意見をいただきましたが、高校生という発達段階においては、一定規模の生徒集団の中で、互いに切磋琢磨するなどして、社会性や協調性を育てていくことが重要と考えております。生徒減少が進む中、これから高等学校で学ぶ子どもたちにとって望ましい高校教育の環境を整備する必要から、県立高等学校の再編整備は避けられない状況にあると考えます。
5	A	十分な高校生活（学校行事や自由な課外活動選択等）が可能な、クラス数、生徒数を必ず保持して頂きたい。	県立高等学校の望ましい規模である1学年160人～320人（4学級～8学級）を基本とし、1学年120人（3学級）の高等学校については、教育効果等を検証しながら柔軟に対応することとし、1学年120人を下回る高等学校については、特別な場合を除いて、再編の対象校として検討することとしています。
6	A	高等学校は義務教育ではないので、より良い、ニーズに合った教育レベルが望めないと他県や他地区の高等学校へ進学するのではないのでしょうか。	再編整備の実施により、学校としての活力の向上や教育の質の充実を図り、魅力と活力のある高等学校となるよう取り組んでまいります。
具体的な再編整備実施計画について（全体）			
7	C	普通科と他の学科をもつ学校が計画されているが、その際に大学進学等を念頭に置いた指導が十分にできるのか、支障はないのか示してほしい。また、他県で成果をあげている学校の例なども示してほしい。	本県には普通科と職業系専門学科の併置校はありませんが、他県には多くの事例がありますので、それぞれの学科の教育の質が向上するよう、調査、研究をしてまいります。
8	D	校舎制では教員の負担が重くなったり、意志疎通が図りにくかったりマイナス面が大きいと考えるので反対である。再編のメリットに部活動に関する点が挙げられるが、距離のある校舎制では、かえって活動が難しくなることも考えられる。 また、再編・統廃合に伴う整備のなかで、	校舎制とは、再編前の高等学校の校舎をそれぞれ活用し、複数の校舎を持つ1つの高等学校として再編する手法です。 本県ではこれまでになかった新たな取組となりますが、新実施計画（第1次）決定後、新高校設置準備委員会において、両高等学校や地元関係者と協議しながら、具

番号	反映区分	ご意見の内容	ご意見への対応
		校舎の増改築等が検討されると思うが、そのために学習や部活動等に必要な施設がなくなるということがないようにしていただきたい	体的に検討することとしております。それぞれの校舎で充実した教育が行われ、新高等学校が魅力と活力のある高等学校となるよう取り組んでまいります。
具体的な再編整備実施計画について（伊万里地区）			
9 く 29	C	<p>それぞれ歴史のある伊万里農林高等学校と伊万里商業高等学校の統合案については、残念な思いではありますが、今後の学校環境、生徒数を鑑みますとやむなしの意見です。</p> <p>しかし、伊万里地区からは平成 20 年に提案書が提出されており、伊万里商業高等学校の校地が適当であると提案要旨で示してあり、校地も伊万里商業高で決まっていると思っていました。</p> <p>校舎、施設、通学路等を総合的に検討すると、校地としては伊万里商業高等学校が適していると考えられます。農業実習施設の問題がありますが、伊万里商業高等学校周辺には十分な利用可能の土地もありますので、県と伊万里市で協力して整備すれば対応できると思います。</p> <p>現在の社会環境から「だれが見ても、どこから見られてもおかしくないように」、また、何より、子どもたちの目線、立場で校地についてはご検討いただき、本当の意味で教育環境が良い場所に決定してください。</p> <p>（同様の意見 20 件）</p>	<p>県立高等学校の耐震化工事が進む中、伊万里商業高等学校は平成 21 年度までに、伊万里農林高等学校も平成 25 年度までに耐震化工事を終えており、平成 20 年とは状況が変化していると考えています。</p> <p>このような状況も踏まえ、新実施計画〈たたき台〉においては、再編対象校や校地について複数案を示し、関係者に説明を行い、学校や地元関係者と協議を重ねてきました。</p> <p>また、伊万里市においては「伊万里地区の高等学校教育に関する関係者会議」で協議をしていただき、意見を集約していただきましたが、この集約結果も踏まえ、新実施計画（第 1 次）（案）を策定しています。</p> <p>校地を含む新高等学校の在り方については、新実施計画（第 1 次）決定後、新高校設置準備委員会において、両高等学校や地元関係者と協議しながら、具体的に検討することとしております。再編後の高等学校の活力が向上するとともに、教育の質が充実し、魅力と活力のある高等学校となるよう取り組んでまいります。</p>

番号	反映区分	ご意見の内容	ご意見への対応
30	C	伊万里商業高等学校には、定時制課程があります。家庭の事情などにより昼間仕事を終えて学習している生徒の教育も大切な分野です。徒歩や自転車通学を安全にできる環境が必要です。現在の伊万里商業高等学校はその意味では素晴らしい環境であるといえます。また、全日制課程にはない給食施設も整備されています。これらを考慮すると伊万里農林高等学校の現在地では厳しい環境になると考えます。	校地を含む新高等学校の在り方については、新実施計画（第1次）決定後、新高校設置準備委員会において、両高等学校や地元関係者と協議しながら、具体的に検討することとしております。定時制課程における教育についてもご意見を伺いながら検討してまいります。
31	C	農業系の高等学校では実践的な学習が大切です。座学をしながら同時に農場実習の実践的な学習を同時並行で行う必要があります。新高等学校の校地は現在の伊万里農林高等学校にさせていただく方が教育環境に優れているのではないのでしょうか。	校地を含む新高等学校の在り方については、新実施計画（第1次）決定後、新高校設置準備委員会において、両高等学校や地元関係者と協議しながら、具体的に検討することとしております。
32	C	伊万里地区（伊万里商業高等学校、伊万里農林高等学校）の再編後の校舎選定については、商業、農業それぞれの専門特性を生かした高等学校への創造と創生を図るべきであり、その特性を最大発揮させるには、現設備機器がそのまま使用出来る『校舎制』が有効である。	校舎制とは先述のとおり、再編前の高等学校の校舎をそれぞれ活用し、複数の校舎を持つ1つの高等学校として再編する手法です。 本県ではこれまでになかった新たな取組となりますが、校地を含む新高等学校の在り方については、新実施計画（第1次）決定後、新高校設置準備委員会において、両高等学校や地元関係者と協議しながら、具体的に検討することとしております。
33	C	伊万里商業高等学校に決まっていた学校の場所が、今回は検討することになっています。まったく地元に関係のない佐賀県以外の第三者に依頼し、双方の学校の条件を比較していただき決定すれば、子どもたちにとっての良い場所に決まるのではないのでしょうか。公平な第三者の決定が良いかもしれません。	前述の新高校設置準備委員会において、いただいた御意見も参考にしながら検討したいと思います。

番号	反映区分	ご意見の内容	ご意見への対応
34	C	<p>教育から見た『新しい高等学校を中心に据えた教育町創り』を、伊万里地区の行政や企業と連携し、商業と農業の融合による、新しい高等学校の創造はイノベーションをもたらすと考える。魅力ある学校には伊万里地域だけではなく、他県より生徒も集まり、結果として消費も拡大する。</p> <p>また、「Ⅲ 県立高等学校の活性化」の中に、グローバル化を目指す項目がある。伊万里は歴史的事実や地政学的にも海外と交流を図り易い立地と環境を備えており、今後、少子高齢化改善対策としても海外より人を受け入れる事も十分考えられる。</p> <p>上記の様な状況を踏まえた、学校再編と魅力ある高等学校の創造をお願い致します。</p>	<p>新高等学校の教育内容や学科等については、新高校設置準備委員会において、両高等学校や地元関係者と協議しながら、具体的に検討することとしています。新高等学校が魅力と活力のある高等学校となるよう取り組んでまいります。</p> <p>なお、グローバル社会に対応した人材育成については、新実施計画（第2次）において検討することとしています。</p>
具体的な再編整備実施計画について（杵島地区）			
35	D	<p>今回提示された白石高等学校と杵島商業高等学校の再編に係る「当面、校舎制」については反対です。2つの校舎に分かれての学校生活で、学校の活力や教育効果の維持ができるとはとても思えないからです。最初から1つに統合し、不足する教室や設備があれば準備して生徒を受け入れてほしいと思います。</p>	<p>校舎制とは、先述のとおり再編前の高等学校の校舎をそれぞれ活用し、複数の校舎を持つ1つの高等学校として再編する手法ですが、これは、これまで各校が地域で担ってきた役割や新実施計画〈たたき台〉に対する地域の要望等を踏まえ提示したものですので、ご理解ください。</p> <p>本県ではこれまでになかった新たな取組となりますが、新実施計画（第1次）決定後、新高校設置準備委員会において、両高等学校や地元関係者と協議しながら、具体的に検討することとしております。それぞれの校舎で充実した教育が行われ、新高等学校が魅力と活力のある高等学校となるよう取り組んでまいります。</p>

番号	反映区分	ご意見の内容	ご意見への対応
具体的な再編整備実施計画について（杵島地区・鹿島地区）			
36	D	<p>武雄・杵島地区と鹿島・藤津地区のなかの、白石高等学校と鹿島高等学校を統合し、杵島商業高等学校と鹿島実業高等学校を統合した方がいいと思います。今でも、白石からはけっこう鹿島高等学校に行かれていますし、地区にはそんなにこだわられていないかと思います。普通高等学校と実業高等学校とに分けた方がそれぞれに特色ある教育活動ができ、魅力的な学校になると思うのですが・・・。</p>	<p>生徒が減少する中、統廃合を含めた高等学校の再編整備は避けられないと認識しておりますが、学科の配置については、多様性や選択性の確保、全県的な地域バランスの視点から総合的に検討する必要があると考えます。</p> <p>生徒の通学実態等も勘案し、各学校の教育内容を学科として地域に残した方が望ましいと判断し、異なる学科を併置した高等学校として再編することとしております。</p>
37	D	<p>普通科と他の学科を併置する場合、学校運営には様々な課題が発生すると考える。杵島武雄、鹿島嬉野地区を一つの地区と考えて、普通科同士、商業系の学校同士の再編も検討すべき。両地区の普通科のクラス数の調整で、普通校は維持できると考える。</p>	<p>本県には普通科と職業系専門学科の併置校はありませんが、他県には多くの事例がありますので、それぞれの学科の教育の質が向上するよう、調査、研究をしております。</p> <p>今回の新実施計画（第1次）（案）では、生徒の通学実態等も勘案し、各学校の教育内容を学科として地域に残した方が望ましいと判断し、異なる学科を併置した高等学校として再編することとしております。</p>
具体的な再編整備実施計画について（嬉野地区）			
38	D	<p>嬉野高等学校も塩田工業高等学校も地域密着の学校です。生徒の減少だけで判断すべきでは、無いと考えます。子供達の歓声が無くなると、地域は元気を無くすと思います。</p>	<p>地区説明会でも同様の意見をいただきましたが、高校生という発達段階においては、一定規模の生徒集団の中で、互いに切磋琢磨するなどして、社会性や協調性を育てていくことが重要と考えております。生徒減少が進む中、これから高等学校で学ぶ子どもたちにとって望ましい高等学校教育の環境を整備する必要から、県立高等学校の再編整備は避けられない状況にあると考えます。</p> <p>なお、新実施計画（第1次）（案）では、嬉野地区の再編整備について、両校の校舎をそのまま活用する校舎制を導入する案</p>

番号	反映区分	ご意見の内容	ご意見への対応
			を示しています。
県立高等学校の活性化について			
39	C	県内高等学校の就職状況や進学後の就職状況は、十分に調査されたでしょうか。従来の学科に執着する事なく、基礎学力や社会で対応できる力、経済産業省の提唱する「社会人基礎力」に対応できる基礎力等を付ける教育を検討して欲しいものです。	高等学校卒業時の学科ごとの就職や進学状況については、毎年データを取り、経年比較をしています。大学、専門学校等進学後の就職状況については個人情報のためデータ入手が難しいところです。 なお、生徒が「生き抜く力」を身に付け、地域や社会で活躍できる有能な人材育成を図るため、新実施計画（第2次）において、学科等の整備について検討することとしています。
40	C	「グローバル社会に対応した人材育成」について、イメージしやすいよう、具体的に他県他校の事例の記載を検討してください。	グローバル社会に対応した人材育成については、新実施計画（第2次）において検討することとしています。
41	C	職業教育について、今後どのように、取組まれるのか、具体策を記載してください。学科イメージを、保護者や県民が思い描く事ができる内容や教育課程を、十分にご検討ください。	産業技術の高度化に対応した学科等の整備については、新実施計画（第2次）において検討することとしています。
42	C	再編はもはや仕方がないことと思いますが、再編を機に、魅力ある、正に将来を見据えた学校づくりを考えて頂きたいと思えます。これからは、労働力の減少にともない、即戦力が必要になってきます。 たとえば、企業とタイアップしたような形の教育が必要と思えます。 ネット社会の拡大から、商業と農業の融合など魅力ある学校づくりができると思えます。	学科等の整備については、新実施計画（第2次）において検討することとしています。 また、新高等学校の教育内容や学科等については、新高校設置準備委員会において、両高等学校や地元関係者と協議しながら、具体的に検討することとしています。
県立高等学校の通学区域について			
43	A	通学区域（学区）を4学区から2学区にすることについては賛成です。	普通科に対する生徒の選択幅を拡大するためには、通学区域を拡大することが望ましいと考えています。